

第2四半期決算説明会

2024年3月期

2023年11月29日




株式会社 大真空（証券コード：6962）

取締役 専務執行役員

営業本部長 長谷川 晋平



2024年3月期 第2四半期決算トピックス

-  低調なマーケット環境の中「**減収減益**」
-  車載分野は前年同期比「**2桁増収**」
-  フォトリソ比率初の「**20%超**」
-  配当据え置き「**28円**（年間）」

2024年3月期 第2四半期実績（前年同期比）

減収減益

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	
	第2四半期	第2四半期	増減	増減率
売上高	20,292	19,332	△ 960 ↓	△ 4.7%
営業利益	2,810	901	△ 1,909 ↓	△ 67.9%
経常利益	4,751	1,977	△ 2,774 ↓	△ 58.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,986	1,391	△ 1,595 ↓	△ 53.4%
USD平均レート（円）	134.03	141.06	7.03 ↑	

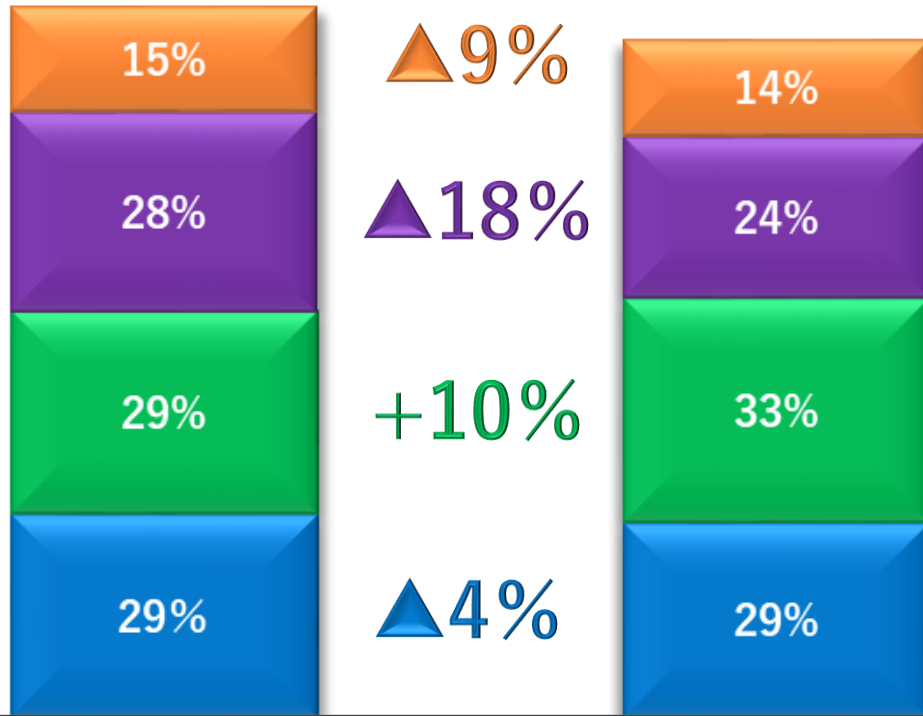
マーケット別販売実績（前年同期比）

車載向けは2桁増収

2023年3月期
第2四半期
202億円

<売上高増減率>

2024年3月期
第2四半期
193億円



(構成比)

(構成比)

産業



設備投資抑制により需要は低迷

民生



前年下期以降、コロナ特需からの反動でPC向けを中心に低迷

車載



半導体不足の影響も緩和されつつあり、堅調に推移

通信



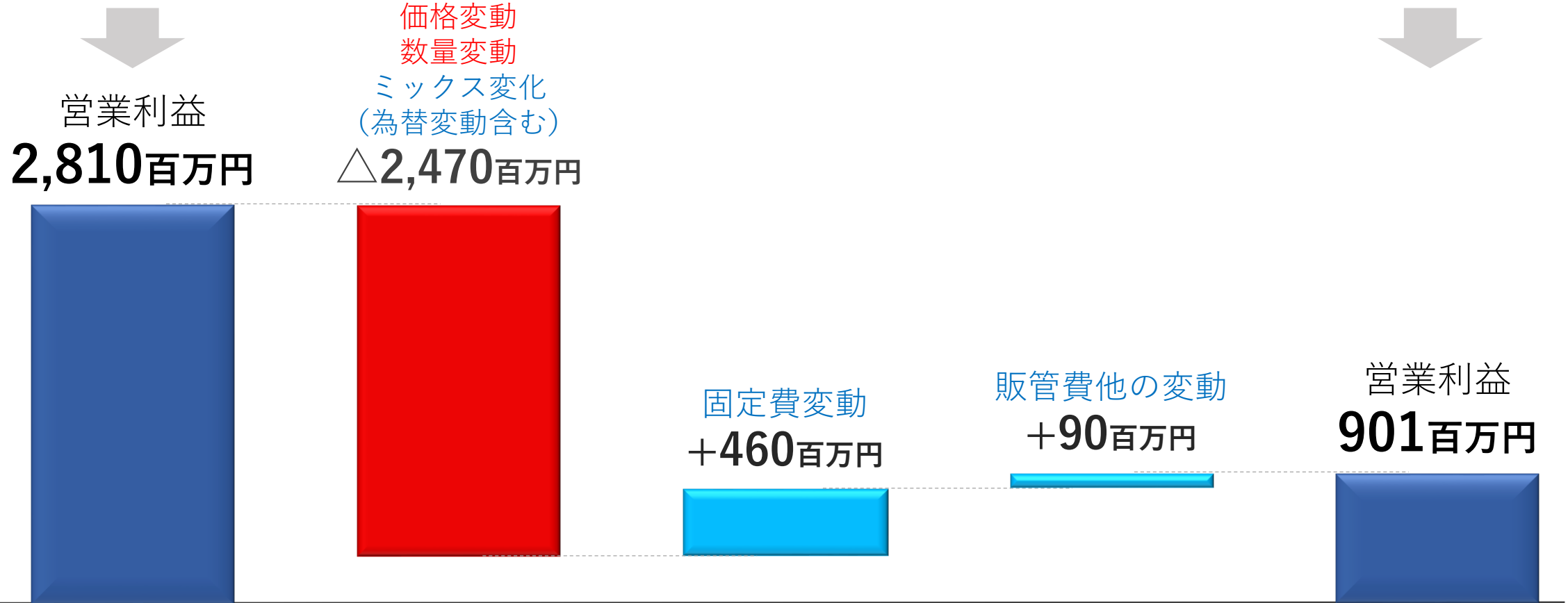
在庫調整は進展し回復の兆しが見られるものの最終需要は伸び悩み

営業利益増減分析（前年同期比）

2023年3月期
第2四半期

△1,909 百万円

2024年3月期
第2四半期



2024年3月期 第2四半期実績（直前四半期比）

増収減益（営業利益）

	2024年3月期	2024年3月期	直前四半期比	
	4-6月	7-9月	増減	増減率
単位：百万円				
売上高	9,318	10,014	696 ↑	7.5%
営業利益	518	383	△ 135 ↓	△ 26.1%
経常利益	1,052	925	△ 127 ↓	△ 12.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	439	952	513 ↑	116.9%

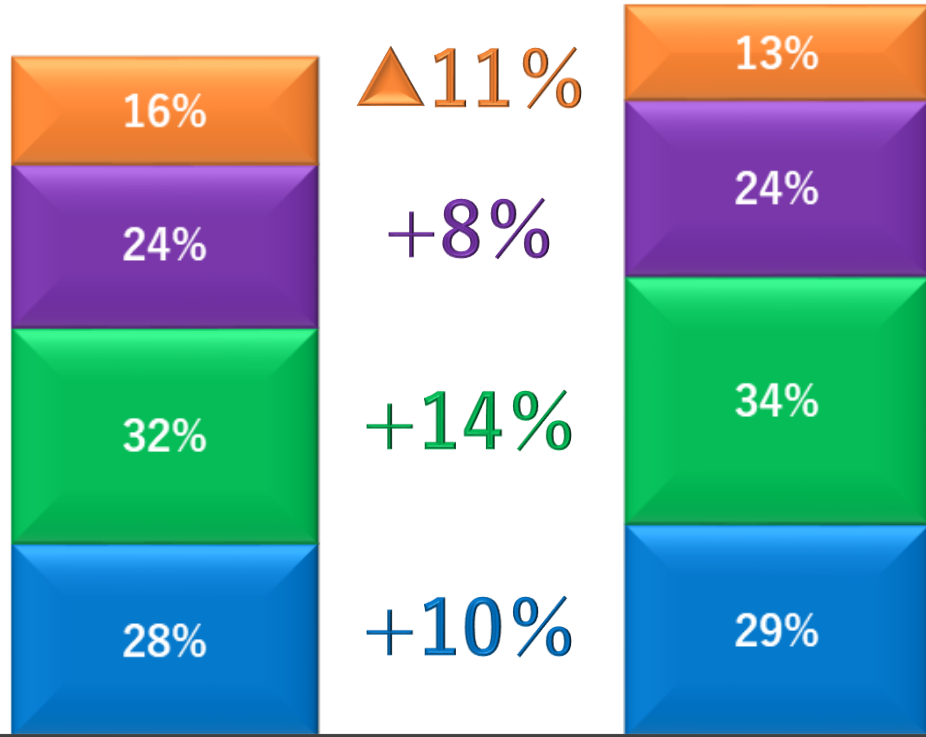
マーケット別販売実績（直前四半期比）

車載は堅調/通信でも2桁の増収

2024年3月期
4-6月
93億円

<売上高増減率>

2024年3月期
7-9月
100億円

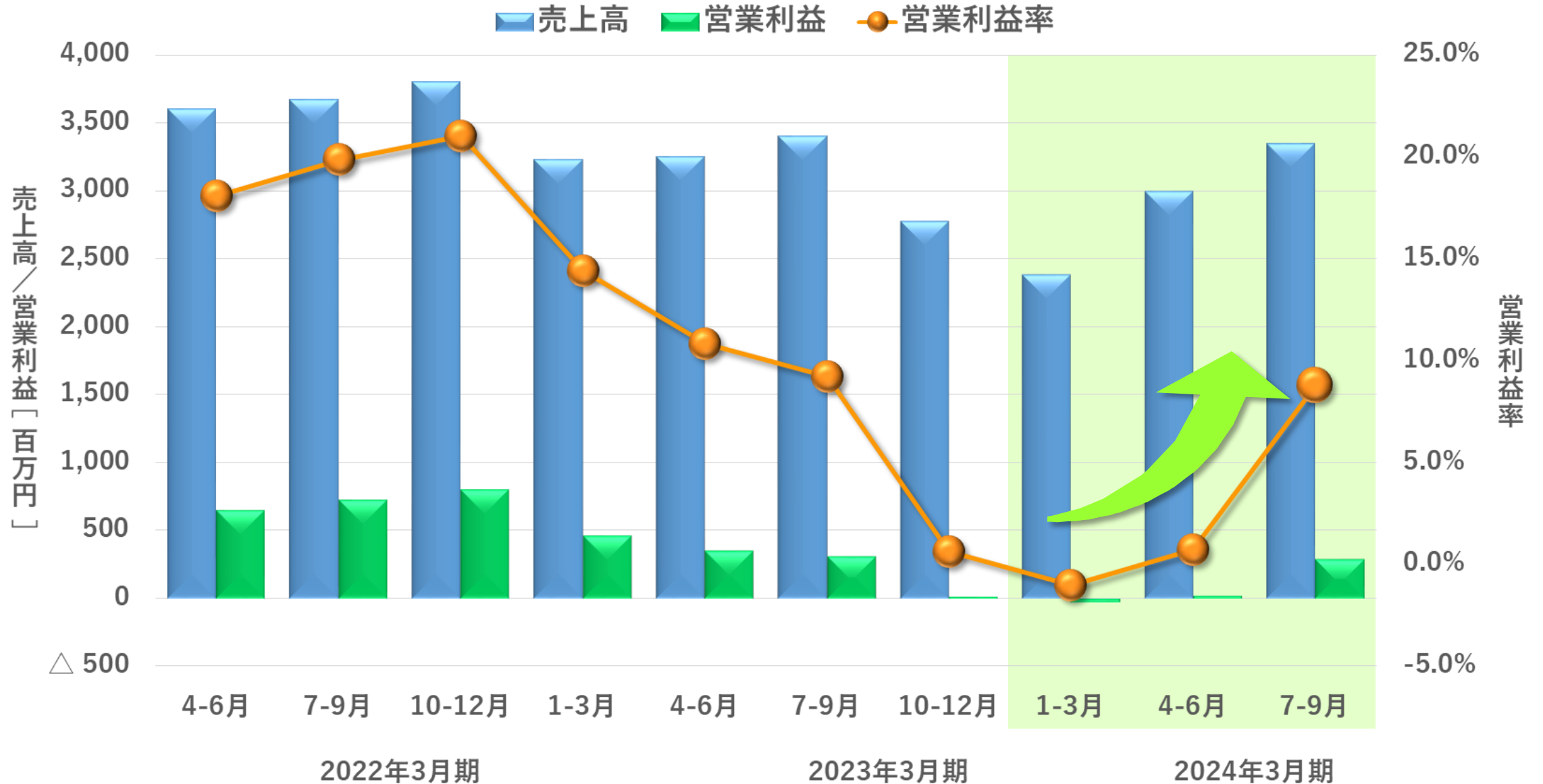


(構成比)

(構成比)

産業		設備投資の抑制や 部品在庫の調整が継続
民生		PC関連において回復基調に
車載		1Qに引き続き2桁の増収 堅調に推移
通信		中国スマホのハイエンドモデル 向けが回復基調

台湾セグメント



営業利益増減分析（直前四半期比）

2024年3月期
4-6月

△134 百万円

2024年3月期
7-9月

営業利益
518百万円

価格変動
数量変動
ミックス変化
(為替変動含む)
+190百万円

固定費変動
△100百万円

販管費他の変動
△230百万円

営業利益
383百万円

設備投資／減価償却費／研究開発費

(単位：百万円)

前年同期比	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減
設備投資	3,576	2,229	△ 1,347
減価償却費	1,890	1,859	△ 31
研究開発費	1,071	1,073	2

直前四半期比	2024年3月期 4-6月	2024年3月期 7-9月	増減
設備投資	767	1,462	695
減価償却費	910	949	39
研究開発費	503	570	67

主な設備投資

- ▶ フォトリソ関連設備
- ▶ 基幹システム など



2024年3月期 通期業績予想

上方修正

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期		通期予想
	通期	上期実績	下期予想	
売上高	38,430	19,332	18,668	38,000
営業利益	4,210	901	599	1,500
経常利益	5,106	1,977	△ 277	1,700
親会社株主に帰属する当期純利益	3,208	1,391	△ 291	1,100
ROE	9.3%	-	-	3.0%
ROIC	4.1%	-	-	1.4%
USD平均レート（円）	135.50	141.06	145.00	143.03

※11-12月平均レート：150円、1-3月平均レート：140円、期末レート：135円を想定

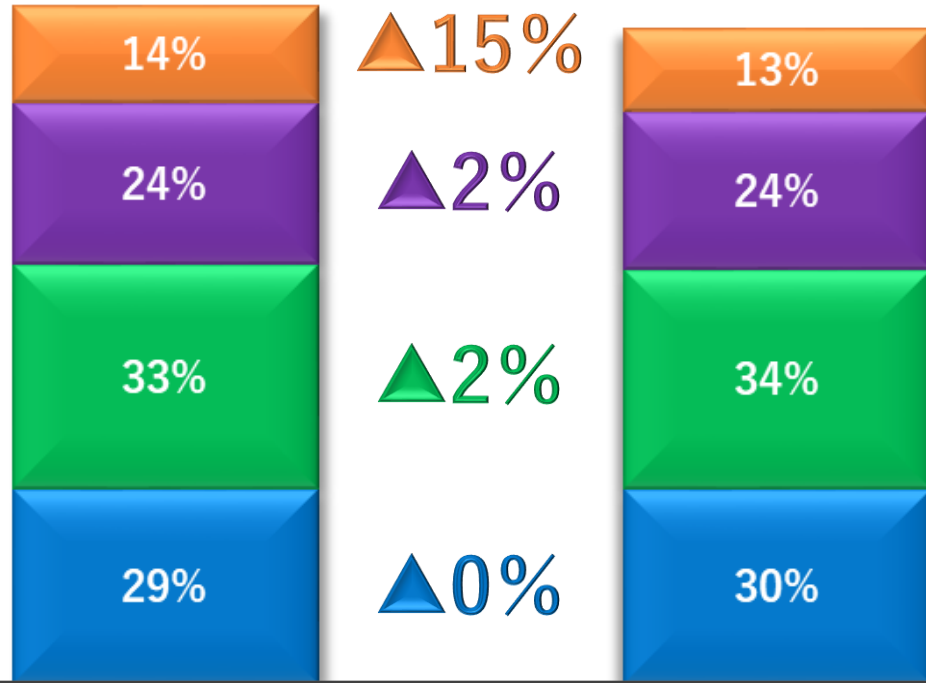
マーケット別販売（上期実績対下期予想）

季節要因により減収

2024年3月期
上期
193億円

<売上高増減率>

2024年3月期
下期
186億円



(構成比)

(構成比)

産業



下期は調整感が継続

民生



市場は緩やかな回復傾向にあるものの中華圏の季節要因（春節）により市場は伸び悩み

車載



3Qは欧米の季節要因（クリスマス休暇）により市場は伸び悩み

通信



中華圏の季節要因（春節）により市場は伸び悩み

営業利益増減分析（上期実績対下期予想）

2024年3月期
上期

△303 百万円

2024年3月期
下期

営業利益
901百万円

価格変動
数量変動
ミックス変化
(為替変動含む)
+220百万円

固定費変動
△380百万円

販管費他の変動
△150百万円

営業利益
599百万円

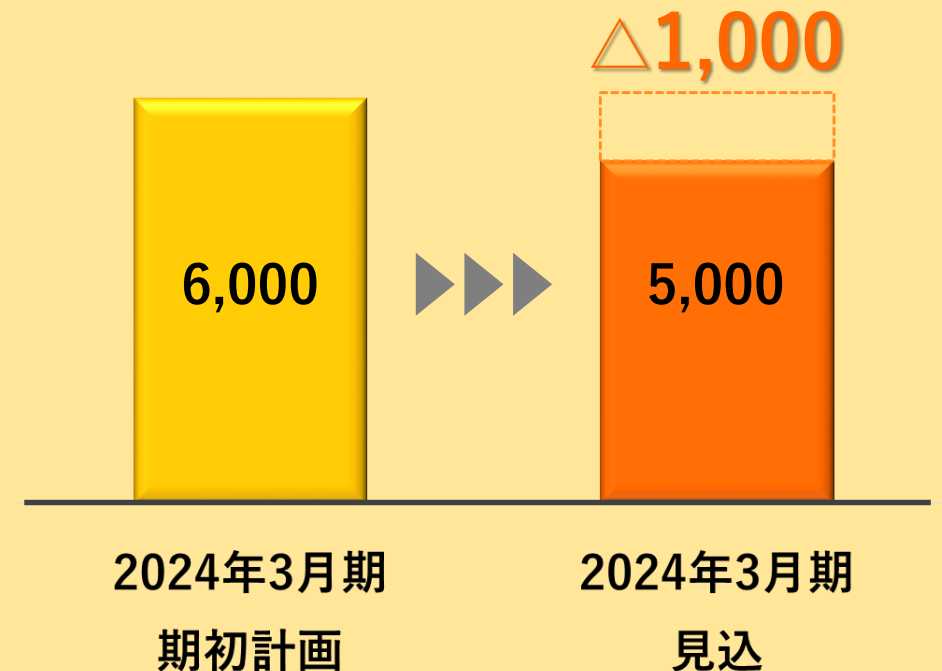
設備投資／減価償却費／研究開発費（通期計画）

（単位：百万円）

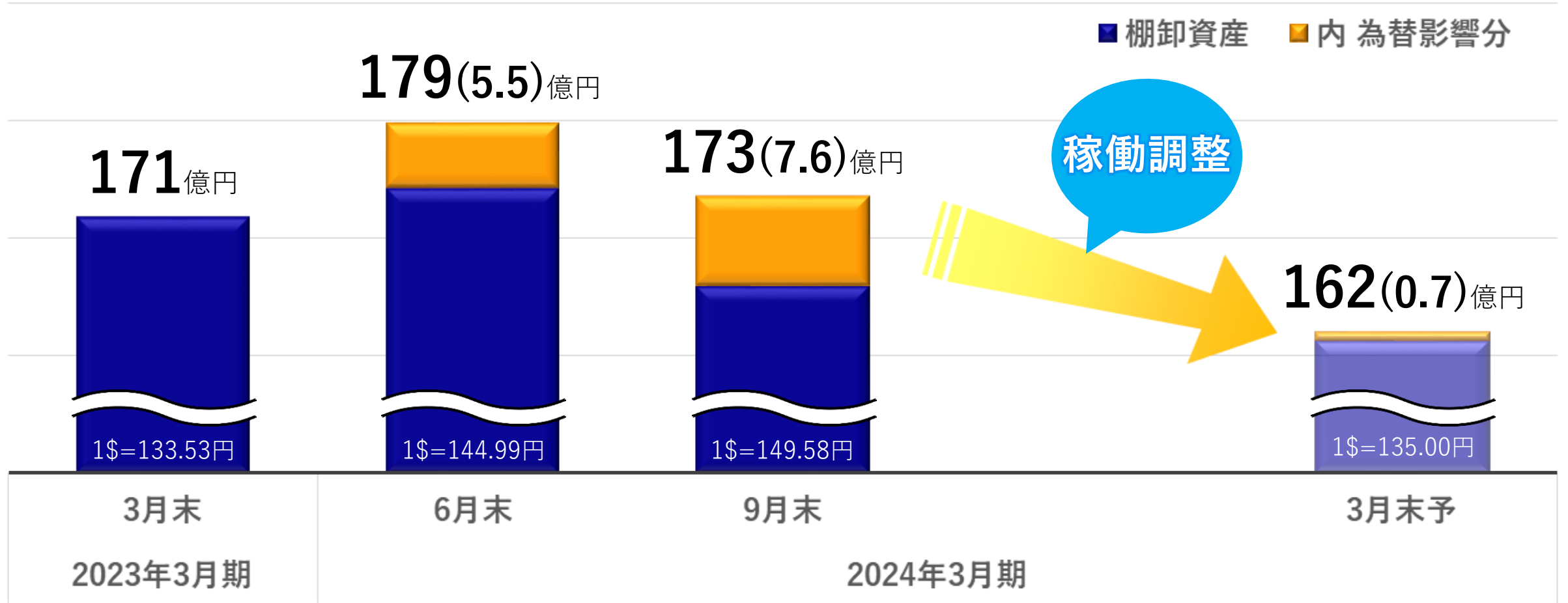
	2023年3月期	2024年3月期	増減
設備投資	5,913	5,000	△ 913
減価償却費	3,993	4,100	107
研究開発費	2,205	2,300	95

市場環境を踏まえ
増産設備、省力化設備、
インフラ関連設備の一部を
来期以降へスライド

（単位：百万円）



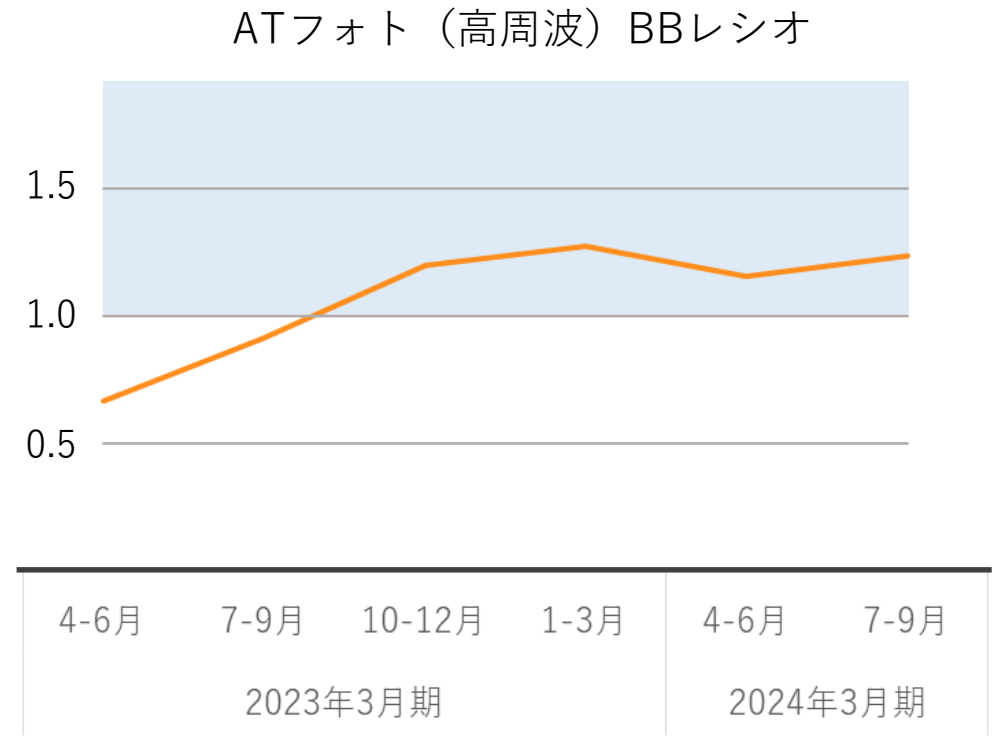
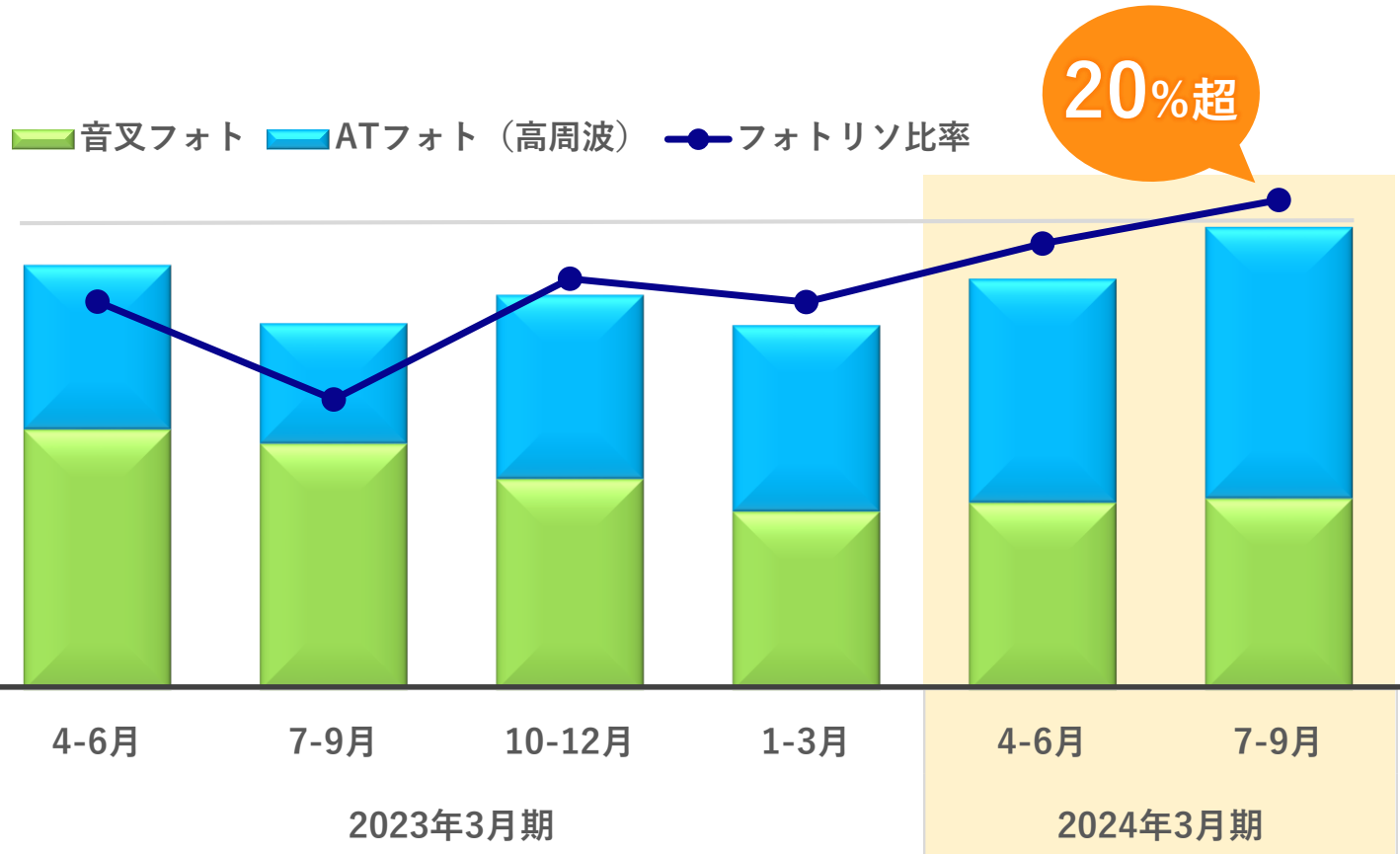
棚卸資産の推移



※ () は為替影響額

フォトリソ製品売上高 四半期推移

フォトリソ製品売上高比率 初の20%台達成、通期でも20%超見込み



※値は月別BBレシオの四半期平均値

来期のマーケット見通し

通信

スマホに加え通信モジュールの在庫調整も終了
市場は**回復基調が継続**

上期



下期



車載

欧州車載メーカーの在庫調整終了
市場は**堅調に推移**

上期



下期



民生

PC、SSDの需要が増加する見込み
市場は**緩やかに回復**

上期



下期



産業

FA機器は低調
スマートメータ関連は**増加見込み**

上期



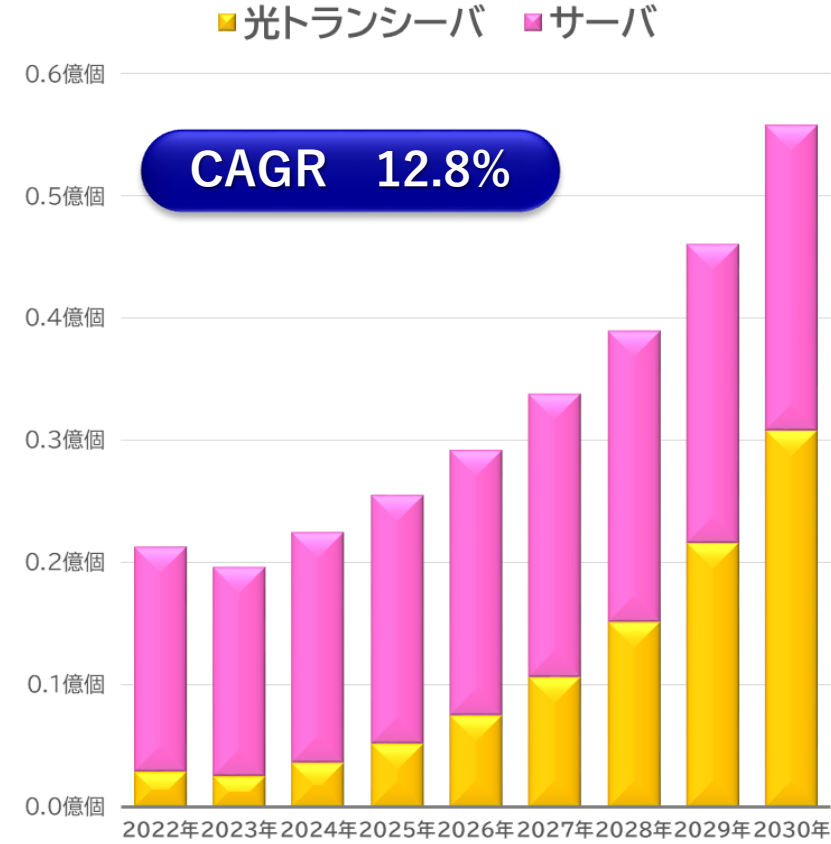
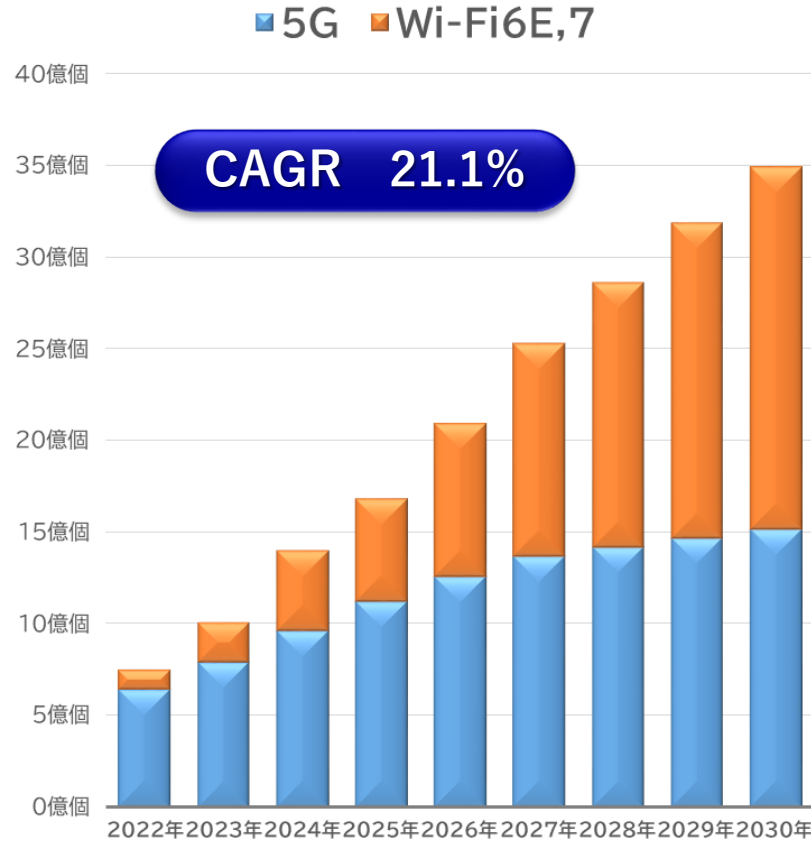
下期



高周波化トレンド

高周波水晶デバイスのマーケット規模

高周波水晶デバイス（76.8MHz以上）の数量動向



※水晶デバイス数量動向：テクノシステムリサーチ、富士キメラの市場動向予測より、弊社推定

通信周波数動向予測

■現状 ■将来

	2010年代	2020年代	2030年代
Cellular	4G	5G	6G
対象製品 サーミスタ振動子	38.4 MHz	76.8 MHz 153.6 MHz	153.6 MHz 307.2 MHz
Core Network	100G	400/800G	1.6/3.2T
対象製品 差動発振器	156.25 MHz	312.5/320 MHz 400/625 MHz	1.25 GHz
Wi-Fi	Wi-Fi 5	Wi-Fi 6/6E/7	次世代Wi-Fi
対象製品 水晶振動子	38.4 MHz 40/48 MHz	76.8 MHz 80/96 MHz	153.6 MHz 192 MHz

水晶周波数の高周波化

高周波化が進むにつれ 水晶片の厚みは、より薄く

水晶周波数 76.8 MHz 153.6 MHz 307.2 MHz より高周波へ

水晶片厚み



22 μm
(0.022mm)

11 μm
(0.011mm)

5 μm
(0.005mm)

より薄く → 高い技術力

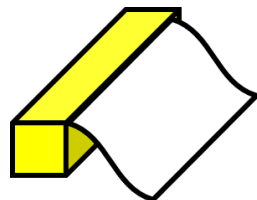
- 水晶片自体の製造
- 水晶デバイスの組立

厚みのイメージ
身近な事例

コンビニレジ袋
厚み約 25 μm



食品用フィルム
厚み約 10 μm



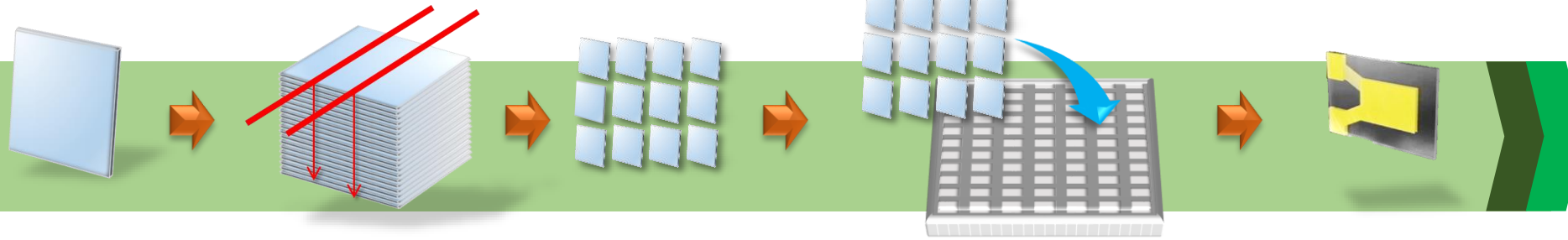
赤血球
直径約 6~8 μm



高周波にはフォトリン技術

機械加工

水晶ウエハ ブロック化&切断 個片化 蒸着パレット搭載 電極形成（個片）



高周波
対応に限界

バラツキ大

加工難度 高

バラツキ大

アセンブリ
工程へ

フォトリン加工

水晶ウエハ

露光（パターン転写） 電極形成（ウエハ）



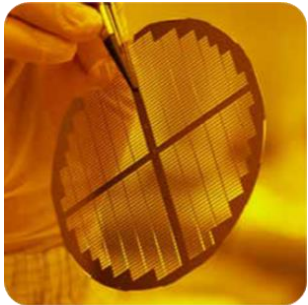
高周波
対応に適する

高周波化への取組み

人工水晶大型化、ウエハ大判化



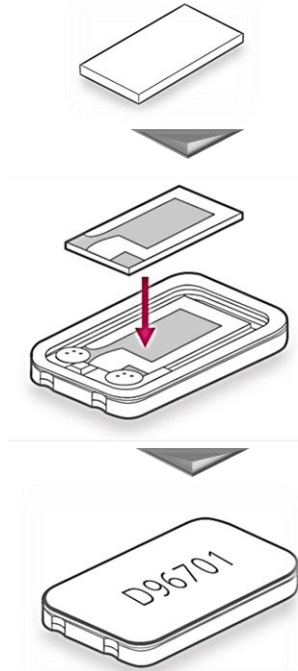
6インチ人工水晶
引上げ成功



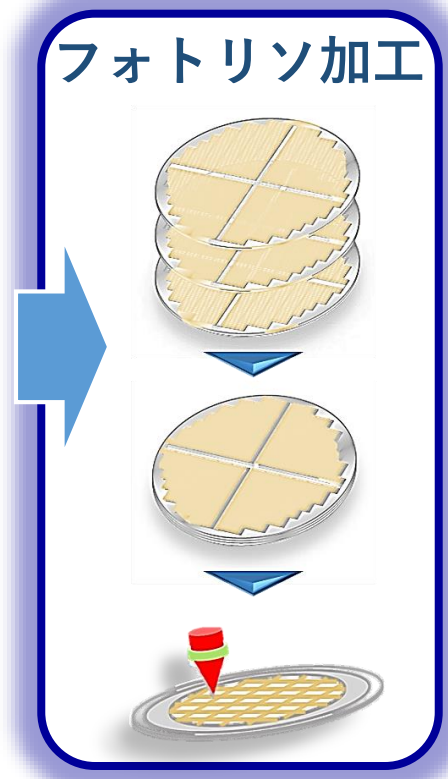
6インチウエハ
量産目前

高精度化対応

機械加工

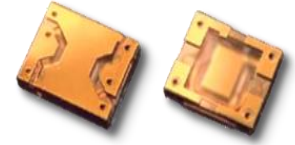


フォトリソ加工

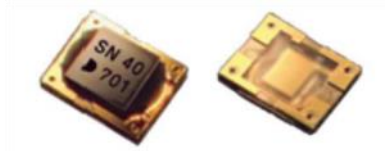


Ark、モード発振器

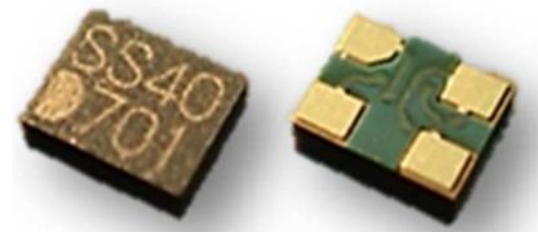
Ark
振動子



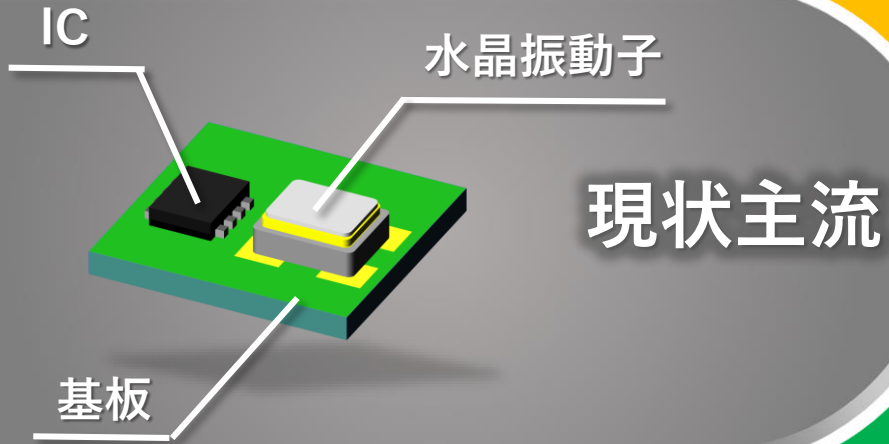
Ark
発振器



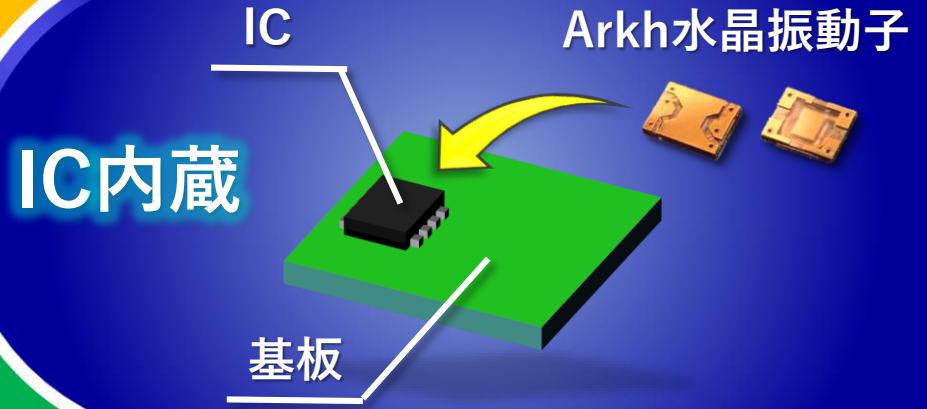
モード発振器



ArkシリーズのIC内蔵



基板実装イメージ



比較表

必要 ▲

搭載スペース

不要 ◎

必要 ▲

お客様による回路設計

不要 ◎

長い ▲

配線（ノイズの影響に関係）

短い ◎

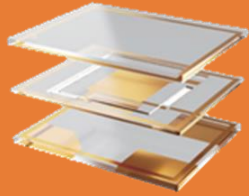
高周波・小型対応に優位性を持つArkシリーズはIC内蔵に最適

Ark Series Advancement

通信周波数 高周波化

フォトリン製品で対応

Ark Series is the best

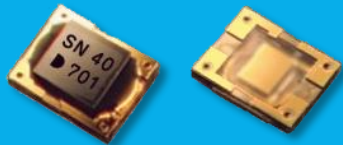


フォトリン3層構造
大真空オリジナル製品

Ark振動子



Ark発振器



- 76.8MHz / 153.6MHz / 156.25MHz / 307.2MHz
に対応

- 顧客評価 工場監査 定期ミーティング 順次実施中

- 米国大手チップセットメーカー

- 欧米自動車半導体メーカー

- スマホ大手メーカー

長期経営戦略 「OCEAN+2戦略」

2019年11月制定



「OCEAN+2戦略」 7つの基本戦略

- One** ▶ 一社供給
- Cost** ▶ 低コスト域への挑戦
- Element** ▶ コアテクノロジー：水晶の育成、切断／研磨
- Alliance** ▶ 共創
- Niche** ▶ 残存者利益
- +1** ▶ 新たな結晶
- +2** ▶ 新たなデバイス

今期の業績予想など将来に関する記述につきましては、現時点で得られた情報に基づき算出しており、不確定な要素を含んでいます。実際の業績は業況の変化などにより、将来に関する記述と大きく異なる場合があります。

また、当社はこの資料の発行後、適用法令の要件に該当する場合を除き、将来に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

